

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
文化・教養	芸術専門課程	スポーツ健康学科三年制 テニスコース				平成27年文部科学大臣告示 第14号	-																		
学科の目的	プレイヤーとしての競技力向上を主軸に置いた「プレイヤー専攻」と、コーチやテニスクラブスタッフに必要なスキルを身につける「コーチング専攻」を設置。一流のコーチと理想の指導環境のもとで学べます。3年生時にはプレイヤーとして実業団の試合に出場し経験を積むことができ、コーチングの一環としてテニススクールマネジメントなど高い専門性を学ぶことができます。																								
認定年月日	平成28年2月19日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																	
3年	昼間	2470時間		1095時間		4050時間		単位時間																	
生徒総定員		生徒実員		留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数		総教員数																	
120人の内数		17人		1人	3人	80人		83人																	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日				成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																			
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日				卒業・進級 条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																			
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動： 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等 (平成30年度卒業生) 平成30年新設コースのため卒業実績なし ■就職指導内容 ■卒業生数 人 ■就職希望者数 人 ■就職者数 人 ■就職率 % ■卒業者に占める就職者の割合 : % ■その他 ・進学者数： 0人 (平成 30年度卒業生に関する 令和1年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定 等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 平成30年新設コースのため卒業実績なし ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						

中途退学の現状	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 30.0 %</p> <p>平成30年4月1日時点において、在学者10名（平成30年4月1日入学者を含む） 平成31年3月31日時点において、在学者7名</p> <p>■中途退学の主な理由 学校生活・学業への不適合、経済的問題</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談もを行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有・無</p> <p>・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園給付型奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③ 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツを通じて広く社会に貢献できる人材を育成するために、企業等と連携体制を確保して適宜ヒアリングを行い、指導者になるためのスキルの向上や、健康にかかわる栄養やメンタルに関することなどについて内容を検討し、カリキュラムに反映する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ業界より選定している。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
木村 聡	公益社団法人 日本プロテニス協会 認定プロフェッショナル	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	①
金子 栄継	株式会社サイオ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
中村 修三	株式会社コートキーパー	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回（3月・9月）

（開催日時（実績））

第1回 平成29年7月16日 15:00～17:00

第2回 平成31年2月25日 14:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

指導者育成の観点により「指導方法」「実践指導」について、「コーチング演習」などのカリキュラムに反映していく。また現場体験をし現況を理解させて欲しいとの意見があり、八王子市ふれあい財団との連携の上柚木公園テニススクールの他、インターンシップも積極的に参加するよう促していく。

また、ラケットやストリングス、シューズなどの商品知識や、コミュニケーション力、PCスキルが求められるとのことから、ビジネススキルやPC活用などの内容を強化していく。

現場は即戦力の人材が欲しいとの意見から、基本的な球出し技術等を養う「テニス演習1～4」の他に接客力、順応力、対応力が身に着くようなカリキュラム編成を検討していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

テニスに関する技能指テニスプレイヤー・コーチの実務に必要な技能を、実際の企業が実施する仕事内容を踏まえて指導する。実際の指導現場を想定した社会人基礎力養成の助言、協力の得られる企業を選定する導と合わせ、実際の指導現場を想定した社会人基礎力養成の助言、協力の得られる企業を選定する

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

テニス演習1において、有限会社テニスプロジェクトとの打ち合わせにより、テニスの特性を理解し、競技者に必要な技術を高め、年齢別に的確な指導ができるよう密に打ち合わせを実施し、練習内容を確認する。各自毎に必要な技術の洗い出し、技術プラス体力アップの練習を行い、試合に向けて現状の再認識し個人のレベルの向上を目指す。またテニスプレイヤー・コーチに必要な資格や、技能・実習内容や評価を設定し、目標を明確にする。企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
テニス演習1・2	テニスの特性を理解し年齢別にのび的確な指導が行えるコーチング力と競技者に必要な技術を養います。テニス演習1の基本をもとに、コーチング力と競技技術を高めます。	(有)テニスプロジェクト
テニス演習3・4	テニススクールにおける実践的なコーチング技術と競技場面において必要とされる技術力を高めます。個人の適正を考慮したコーチングと技術指導が実践できる能力を養います。	(有)テニスプロジェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

1) 研修名「フィットネス×IOT」

(連携企業等：テクノジムジャパン株式会社 HCP事業部 部長 藤本浩也)

期間：平成30年8月10日 15:30-17:30

フィットネス業界のトレンド・求められる人材

2) 研修名「ICTを活用したウエルネスプログラム」

(連携企業等：コードブック株式会社 細野貴文)

期間：平成31年3月26日10:00-12:00

ICTを活用した健康管理の事例・データから見る施策と効果・ICTの使い勝手と評価

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「教育現場に必要なコーチングコミュニケーション」

(連携企業等：株式会社WACアカデミー 野本知里)

期間：平成30年6月24日 15:30-17:30

伝え方の場作り・やる気に火をつける・アンガーマネジメント

2) 研修名「教育現場に必要なコーチングコミュニケーション」

(連携企業等：株式会社WACアカデミー 野本知里)

期間：平成31年3月10日15:00-17:00

言葉と表現力・相手の反応を見る・行動量

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「スポーツとIOT・ICT」

(連携企業等：コードブック株式会社 細野貴文)

期間：令和1年8月3日16:00-17:30

最新のスポーツに関わるIOTとICTについて

2) 研修名「スポーツとIOT・ICT」(案)
 (連携企業等: テクノジムジャパン株式会社)

期間: 12月~3月を予定

テクノジムの事例から、IOT・ICTを活用した健康管理やモチベーションの維持・向上を図る手法と事例

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「コーチングについて」
 (連携企業等: 株式会社WACアカデミー 野本 知里)

期間: 令和1年8月18日16:00-17:30

コーチングを用いての学生の対応力

2) 研修名「コーチングについて」(案)
 (連携企業等: 株式会社WACアカデミー)

期間: 12月~3月を予定

今期第1回目を踏まえたコーチングの考え方と伝え方

(連携企業等: 株式会社WACアカデミー 野本 知里)

期間: 平成30年6月24日15:30-17:30

コーチングの考え方と伝え方

2) 研修名「教育現場に必要なコーチングコミュニケーション2(案)」
 (連携企業等: 株式会社WACアカデミー(案))

期間: 12月~3月を予定

第1回目を踏まえたコーチングの考え方と伝え方

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

保護者との連携を強化するために保護者会を継続して実施した方が良いとの意見から、学内保護者会および学外会場を増やし、学生へのサポート体制の充実を図る。学生のコミュニケーション能力向上のため、八王子協定ボランティアへの積極的参加を促したり、学科・カレッジを越えた地域連携・企業連携課題などで協働作業を進めコミュニケーション能力向上を図っていく。

社会人の学び直し講座については、実施時期や内容を精査しながら実証研究事業などを参考に再検討していく。

今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用し、教員の研修体制を整えていく。また、女性管理職育成の取組として、女性活躍推進研修を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成30年9月11日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育人人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成29年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制) テニスコース 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なコミュニケーション能力などを身につけます。	1・後	30	2	○			○		○		
		○	MOS	マイクロソフト認定Word、Excel資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・後	30	1			○	○				○
○			PC活用	コンピュータのしくみから基本操作までを、実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○	○				○
		○	予防とコンディショニング1	コンディションの把握・管理・方法と実際について学びます。また、競技特性に応じたコンディショニングや環境整備についても学びます。	1・前	30	1			○	○				○
		○	解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経などの構造と機能について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	○
		○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・前	30	1			○	○			○	
		○	スポーツ自由研究B		1・後	30	1			○	○				○
○			テニス演習1	テニスの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行えるコーチング力と競技者に必要な技術を養います。	1・前	180	6			○	○			○	○
○			テニス演習2	テニス演習1の基本をもとに、コーチング力と競技技術を高めます。	1・後	180	6			○	○			○	○
○			テニス強化演習1	テニスの基礎技術・戦術などを実践形式で学びます。	1・前	30	1			○	○				○
○			テニス強化演習2		1・後	30	1			○	○				○
		○	短期強化練習1	短期集中の練習計画のもと、技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	1・前	60	2			○	○				○
		○	短期強化練習2		1・後	60	2			○	○				○
		○	テニス実践実習1	対外試合を通じて実践的なプレー感を養います。またスタッフ（審判、サポート）として参加し、テニス大会の運営に携わります。	1・前	60	2			○	○				○
		○	テニス実践実習2		1・後	60	2			○	○			○	○
○			トレーニング演習1	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのト	1・前	30	1			○	○			○	○

○		トレーニング演習2	トレーニング方法を学び、実践します。	1・後	30	1			○	○		○	○		
	○	コーチング演習1	テニスを指導するための基本的な考え方を学習します。	1・前	30	1			○	○		○	○		
	○	コーチングインターンシップA	地域テニススクールなどで現場実習を行います。	1・前	30	1			○		○	○	○		
	○	コーチングインターンシップB		1・前	30	1			○		○	○	○		
	○	コーチング実習A	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・前	30	1			○	○	○	○			
	○	コーチング実習B		1・前	30	1			○	○	○	○			
	○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1			○	○			○		
	○	スポーツトレーニング実習A	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	60	2			○	○			○		
	○	スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	120	4			○	○			○		
	○	社会体育実習A	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2			○		○		○		
	○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	1	○			○				○	
	○	キャリアアップセミナーB		1・通	30	2	○				○				○
	○	キャリアアップセミナーC		1・通	45	3	○				○				○
	○	キャリアアップセミナーD		1・通	60	4	○				○				○
	○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○		○			○	
	○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○		○			○	
	○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○			○	
	○	スポーツ医学概論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、アスリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツによる精神障害などについて学びます。	1・後	15	1	○			○		○	○		

		○ 栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活について学びます。	1・後	15	1	○			○								
		○ コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育成プログラムの理念、指導計画の立て方、スポーツ活動と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任などについて学びます。	1・後	30	2	○			○								
		○ トレーニング科学1	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類について学びます。	1・後	15	1	○			○								
		○ 短期海外研修A	海外におけるテニス指導者のテクニックからテニスクラブの運営・管理について、講義と実技を通じて学びます。	1・後	60	2				○		○						
		○ スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○						
		○ スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○						
○		HITトレーニング1	科学的な目線から開発されたトレーニングの基礎『HIT』を基にトレーニング方法を実践します。	1・前	30	1				○	○			○	○			
○		HITトレーニング2		1・後	30	1				○	○			○	○			
○		ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○								
○		ビジネススキル4		2・後	30	2	○			○								
		○ スポーツ自由研究C	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・前	30	1				○	○			○	○			
		○ スポーツ自由研究D		2・後	30	1				○	○			○	○			
○		テニス演習3	テニススクールにおける実践的なコーチング技術と、競技場面において必要とされる技術力を高めます。	2・前	180	6				○	○			○	○			
○		テニス演習4	個人の適正を考慮したコーチングと、技術指導が実践できる能力を養います。	2・後	180	6				○	○			○	○			
○		テニス強化演習3	テニスの基礎技術・戦術などを実践形式で学びます。	2・前	30	1				○	○							
○		テニス強化演習4		2・後	30	1				○	○							
		○ 短期強化練習3	短期集中の練習計画のもと技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	2・前	30	1				○	○							
		○ 短期強化練習4		2・後	30	1				○	○							
		○ テニス実践実習3	対外試合を通じて実践的なプレー感を養います。またスタッフ（審判、サポート）として参加し、テニス大会の運営に携わります。	2・前	45	1				○	○			○				
		○ テニス実践実習4		2・後	45	1				○		○	○					
○		○ トレーニング演習3	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのト	2・前	30	1				○	○			○	○			

○		トレーニング演習4	トレーニング方法を学び、実践します。	2・後	30	1			○	○		○	○	
	○	テニス教師対策1	日本体育協会公認テニス教師取得をめざし、理論、実技を実施します。	2・前	30	2	○			○		○	○	
	○	テニス教師対策2		2・後	30	2	○			○		○	○	
	○	コーチング演習2	テニススクールにおける指導理論、実技を学びます。	2・前	90	3			○	○		○	○	
	○	コーチング演習3		2・後	60	2			○	○		○	○	
	○	プレイヤー演習1	競技力向上をめざし、技術・戦術のトレーニングを行います。	2・前	90	3			○	○			○	
	○	プレイヤー演習2		2・後	60	2			○	○			○	
	○	コーチングインターンシップC	地域テニススクールなどで現場実習を行います。	2・前	30	1			○		○		○	
	○	コーチングインターンシップD		2・前	30	1			○		○		○	
	○	コーチング実習C	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	2・前	30	1			○	○	○		○	
	○	コーチング実習D		2・前	30	1			○	○	○		○	
	○	インターンシップ1	テニススクールなどでインターンシップを経験します。	2・通	45	1			○		○	○	○	
	○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1			○	○		○		
	○	スポーツトレーニング実習C	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	60	2			○	○		○		
	○	スポーツトレーニング実習D	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	120	4			○	○		○	○	
	○	社会体育実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2			○		○	○	○	
	○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	1	○			○		○		
	○	キャリアアップセミナーF		2・通	30	2	○			○			○	
	○	キャリアアップセミナーG		2・通	45	3	○			○			○	
	○	キャリアアップセミナーH		2・通	60	4	○			○			○	
	○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1			○		○		○	
	○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○		○	○	○	

		○ アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○	○	○		
		○ スポーツ経営学	スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価、地域スポーツクラブの機能と役割、広域スポーツセンターの機能と役割、地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり、我が国のスポーツ振興施策について学びます。	2・前	15	1	○		○	○	○		
		○ 健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学びます。	2・前	15	1	○		○		○		
		○ 社会体育概論	スポーツとは、文化としてのスポーツ、社会の中のスポーツ、障害者とスポーツについて学びます。	2・前	15	1	○		○		○		
		○ スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性などについて学びます。	2・前	30	2	○		○		○	○	
		○ 競技者システム育成論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとITについて学びます。	2・後	15	1	○		○		○		
		○ トレーニング科学2	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2・前	30	2	○		○		○	○	
		○ 短期海外研修B	海外におけるテニス指導者のテクニックからテニスクラブの運営・管理について、講義と実技を通じて学びます。	2・後	60	2			○		○		○
		○ スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○	○	○
		○ スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○		○
○		ビジネススキル5	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	3・前	30	2	○		○				○
○		ビジネススキル6		3・後	30	2	○		○				○
		○ 短期強化練習5	短期集中の練習計画のもと、技術、体力、精神力の強化方法について学びます。	3・前	60	2			○	○			○
		○ 短期強化練習6		3・後	60	2			○	○			○
		○ 実践コーチング演習1	スクールコーチとして必要な各レベルに応じた指導法を学び、実践します。	3・前	90	3			○	○			○
		○ 実践コーチング演習2		3・後	90	3			○	○			○
		○ 実践プレイヤー演習1	JOP・外部トーナメントに参戦します。	3・前	90	3			○		○	○	○
		○ 実践プレイヤー演習2		3・後	90	3			○		○	○	○
		○ テニス現場実習A	テニススクール・イベントへスタッフとして参加し、運	3・前	90	3			○		○	○	○

		○	テニス現場実習B	営体験より現場力を学びます。	3・後	90	3			○		○	○	○	
○			スクールマネージメント論1	組織運営ならびに仮想組織を形成し、各セクションの役割を学びます。	3・前	60	4	○				○		○	
○			スクールマネージメント論2		3・後	60	4	○				○		○	
		○	基礎広告宣伝1	広告宣伝、SNS、ブログなどの広告宣伝ツールと実践を学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
		○	業界企業研究1	業界内の業務について学び、企業研究、業界セミナーに参加します。	3・前	60	4	○			○		○	○	
		○	スポーツ栄養論1	スポーツ栄養の基本的な考え方を理解します。	3・後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ用品論1	さまざまなスポーツ用品の特徴や特性を学びます。	3・後	60	4	○			○		○		
		○	インターンシップ2	テニススクールなどでインターンシップを経験します。	3・通	45	1			○		○	○	○	
		○	COOP実習	就職先などの企業における就業体験プログラムです。	3・通	90	3			○		○	○		
○			成果発表	在学中に学んだ事を基に成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	3・通	60	2			○	○		○		
合計							107	科目				5145	単位時間(206単位)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1,410時間(57単位)、選択科目990時間(34単位)合計2,400時間(91単位)取得すること。	1 学年の学期区分	2 期	
	1 学期の授業期間	15 週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。